Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

NASHIM

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会通信

Vol.39
2016

CONTENTS

■ 韓国医師の受入研修を実施しました。
■ 長崎市立深堀小学校で出前講座を実施
■ 被爆70周年ナシム座談会記録誌を作成しました。
■ 第11回永井隆平和記念・長崎賞を募集
■ 出前講座募集のお知らせ

長崎大学病院まえにて

韓国医師等へ受入研修を実施しました。

韓国に居住している被爆者への医療充実のため、被爆者の医療や援護に携わる韓国の医師等を招いて受入研修を実施しました。

第１回は10月４日から５日間、第２回は２月14日からの５日間の研修です。

大韓赤十字社協力病院や韓国原子力医学院から、第１回研修には９名、第２回研修には８名の参加がありました。

日赤長崎原爆病院をはじめとする医療機関や長崎大学などの研究機関で被爆者医療に関する知識の取得や情報交換を行うとともに、原爆資料館や恵の丘長崎原爆ホームを訪れ、被爆の実相について学びました。

ナシム蒔本会長を表敬訪問（10月5日）

原研　腫瘍・診断病理学　中島正洋教授の講義（10月5日）

第１回研修　（10月４日～８日）

金　裕慶（キム・ユギョン）先生　嶺南（ヨンナム）大学医療院　診断検査医学科

医療従事者を対象にプログラムが充実に構成されており、誤差なく日程を進めるため、ご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

失敗を基盤にし、より良いものを体系的に構築してきた過程について、全般的な内容を聴くことができてよかったのと、また日本の底力を感じました。

医療従事者を対象にした内容とともに被爆者に対する全般的な福祉についても一様に扱ったところも大変良かったです。講義を準備してくださった先生方々と施設見学にご協力くださった機関に心からお礼申し上げます。

崔　大鍾（チェ・デジョン）先生　ソウル赤十字病院　応急室

1945年の原子爆弾投下が大韓民国の独立に影響を及ぼしたと思いますが、その裏には戦争とは関係ない善良な長崎・広島の市民、延いては日本人以外の他国の人々の犠牲もあいまっていたことを知りました。

二度とこのような無辜の犠牲が繰り返されないことを願い、原子爆弾により苦しんでいる方たちに慰めの言葉を送りたいです。

また、原子力はきちんと管理して使用するなら良い資源ではありますが、間違った使い方や事故は大きな災いと痛みを来たします。予防・管理・準備に対する努力が切実に必要だと思います。

金　惠蘭（キム・ヘラン）先生　統營（トンヨン）赤十字病院　看護科

４泊５日の長崎ナシム研修に参加する前は不慣れな地と人に対し期待半分、不安半分でした。初日、ナシムと原爆がどういうものか、知らないまま基礎的な知識だけを持って研修が始まりました。

赤十字社と原爆間の関連性は正直に申しますと全く実感できませんでしたが、研修を通して私たちがなぜ原爆について知らなければならないのか、原爆によってどれほど多くの人が苦しめられ、犠牲になったのかを知ることができ、また被爆者の患者さんたちの気持ちを少しながら理解することができました。

原爆の過程とその被害程度、現在の研究の進み具合、これからの研究方向についても詳しく聴くことができ、全般的に解りやすく説明してくださり、配慮が行き届いていたこと、心より感謝いたします。

研修の中で一番印象に残ったのは、原爆ホーム恵みの丘で聴いた被爆者のおばあさんの体験談です。当時の記憶を呼び起こし、振り返りながらお話になる姿を見て、話を聴いていた私たちも胸が苦しく、目頭が熱くなりました。二度と原爆による惨状が起こらないようにと、また健康と回復を心から祈りました。

今回の研修について大変満足していますが、長崎だけでなく広島の原爆被害状況についても間接的に知

ることができれば、と思います。

不慣れの地で見知らぬ人にもかかわらず、配慮深く親切に接してくださった日本の方々に感謝しており、市民意識からも見習う点が多くありました。わが国も外国の人に親切で配慮深い国になってほしいと思いました。

最後に、このような学びの機会を与えてくださった両国の赤十字社の関係者の方々、また現場研修のためお力添えいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

沈　世奐（シム・セファン）**先生**　　韓国原子力医学院　獣医師

今回の研修を通して原爆による人体影響の理解を深めることが出来ました。放射線被ばくを経験した細胞は遺伝的損傷が回復された以後にも比較的に遺伝損傷に対して脆弱だったり、よく知られている急性白血病以後にも長時間が経過した後に、他の種類の白血病がまた発生したりするという内容が印象的でした。

しかし、短期間で数十年間積み上げた結果を説明・理解するには討論の時間が足りなく、各講義で同じ内容の序論が繰り返され、それを再度時間をかけて聴くのが少し残念でした。長崎県の皆様のおかげで長崎での生活及び研修を無事終えることができ、また講義の理解度を高めるのに大きな助けになりました。特に韓国語の解説はたいへん良かったです。

第２回研修　（２月14日～18日）

2月15日
日赤長崎原爆病院にて

金　運（キム・ウン）先生　　仁川（インチョン）赤十字病院　歯科医師

被爆に対してより一層理解できる機会を設けていただき、厚くお礼申し上げます。これからも放射線防護及び被ばくに対する治療・研究がよりもっと発展できることを願います。

赤十字原爆病院の医療従事者皆様の労を多とし、長崎大学の先生方の研究に対する情熱とその姿勢に賛辞を送ります。また、寒い中、付き添って案内してくださった関係者の皆様に心より深く感謝いたします。

丁　凡晋（ジョン・ボムジン）先生　　ソウル赤十字病院　内科医師

原爆とそれによる医学的理解だけでなく、現在日本の努力などについてより多くの理解を得て戻ります。

原爆に対する知識と知恵がより発展し、もう二度とこのような被害が起こらない世界になってほしいと願います。

貴重な経験をすることができ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

鄭　美英（ジョン・ミヨン）先生　　尚州（サンジュ）赤十字病院　看護師

福岡空港に着いた時、温かく迎えてくださった関係者の皆様に感謝いたします。

翌日から研修が始まり、二日間は少しきつい日程でした。

日本赤十字長崎原爆病院は比較的私が勤めている病院と似ていて馴染みやすかったです。

長崎大学は原爆が投下された中心地の近くに位置しているにもかかわらず、所々その痕跡をよく保存しており、被害者たちの魂を偲ぶ塔もあって印象的でした。講義の中で「平和、いつも平和」という言葉がありましたが、切実に感じました。

最後に、研修中、いつも親切にしてくださった関係者の皆様にお礼申し上げます。

金　善實（キム・ソンシル）先生　　韓国原子力医学院　看護師

1　馴染みのない国に着いたとき、韓国語を話せる職員さんらが迎えに来てくださり、研修に馴染み易くなり、慣れることができました。

2　原爆患者の診療を持続的に実施している赤十字病院の訪問と弛まなく研究をしている長崎大学の研修過程は事件発生時点から現在に至るまでの放射線影響に対する連係性を短時間で学ぶことができました。

3　高線量の放射線影響の研究結果と、研究者たちが関心を持って研究を進めようとする低線量放射線影

響に対する研究進行過程が期待されます。

4　意図しなかった歴史的事故を通じてNASHIMと日本の関係機関は放射線医学研究の先駆者の役割を随行していると思います。

5　全日程を共にしてくださった関係者の皆様と講義してくださった先生方々に心より厚くお礼申し上げます。

朴　世榮（パク・セヨン）先生　　韓国原子力医学院　医療技術者

1　全般的な教育日程がきつくない点が良かったです。

2　担当者の負担を減らすため、同行は始めの１～２日位で良いと思います。研修者らだけで移動するのに難しい点はなかったので、場所などを教えていただければ自分たちで移動できます。ご配慮に深く感謝しております。

3　原爆と原発事故に対する全般的な思い、状況、管理などを知ることができました。

4　研修を職種別に細分化できれば良いと思います。

5　研修について講義資料を冊子に作って配布していただければ、より理解できると思います。（学会抄録のように日程と地図、場所、食事方法、抄録内容など）

2月16日　国際保健医療福祉学　高村　昇教授の講義後

ブラジルからの研修生紹介

ナシムの構成機関である長崎大学及び長崎原爆病院等で２月15日から20日間研修を受けられたブラジルからの研修生を紹介します。

この研修事業は、厚生労働省から長崎県に委託された在外被爆者支援事業の一環として行われているもので、海外の医師を招聘し、日本の原爆医療等に関する研修を実施しています。

今年度は日伯友好病院とサンタクルス病院から2名の医師を受け入れました。

最初の３日間は韓国からの研修生と同様、被爆の実相を学ぶ研修を受け、残りの２週間はそれぞれ専門の研修を受けました。

研修後の感想

日伯友好病院　放射線科　**小松　明人**　先生

NASHIM、長崎県庁、長崎大学病院、赤十字原爆病院の皆様、この三週間研修ありがとうございました。

私は、原爆の事についてはテレビ、新聞、インターネットなどで僅かしか知りませんでした。原爆の恐ろしさ、数々の被害者、身体的・精神的な影響、親戚、親友、知り合いを亡くした寂しさなどを心から感じました。

病院では、何十年にわたる電子カルテにびっくりしました。患者様の名前を検査すれば、すぐに患者様の病歴、投与過程及び検査過程が簡単に検索・抽出できて、又、前回、又、何年間前になさった画像診断検査結果（例えば、X線単純写真、CT検査など）直ぐにみられるので、前回の状態と現在の状態の共通点や異なりなどを非常に早く判断できることに関心を持ちました。

放射線診断科では、CTの新しい機種で心拍数をあまり下げなくても冠動脈を調べられるという事はすごいと思いました。又、新しいコンセプト、新しい検査の仕方など、日本で使われている検査器具の勉強になり、これらをブラジルの病院でできるよう行動していきたいと思います。

長崎を見学して、日本の歴史、近代化の発展、日本の文化などの勉強になりました。これらの事を今の世代の人たちに残すため皆さまが努力をしている事を身に感じました。又、長崎の寺、神社を参詣している間、自分の心も軽く、清らかになった感じがします。

本当にこの三週間の研修は自分の専門の勉強になり、又、新しい考え方、見方が自分の身についた感じがしました。

戦争が無い、核兵器を使わない、世界中の人たちが幸せに生きれるような場所を世界に作ろうと祈願している皆さんの思いを感じ、これをブラジルの人たちにも伝えたいです。

韓国医師との合同研修中

サンタクルス病院　泌尿器科　**オタガ　モアシール**　先生

長崎での研修を終えて

先ず、長崎大学病院や長崎原爆病院の医師や職員の方々、また、長崎への旅が実現するために協力して下さった全ての方々に、心からの感謝を捧げたいと思います。

今回の研修では、電離放射線が与える物理的、分子的および生理的な影響と、電離放射線によって生じる短期、中期、長期な結果について、非常に大切な知識や情報を得る事が出来ました。また、原爆資料館をはじめ、原爆によって損傷を受けた場所を訪問する事で、人間の心無い行為によって引き起こされた破壊的な結果を肌で感じる事が出来ました。被爆者の方達の痛みや苦しみ、破壊された人生といった事柄は、その場に居合わせた事がない人には、いくら想像を逞しくしても理解する事が出来ないでしょう。

しかし、連帯精神や人間性、知識、能力に長けた日本人は、その特性や文化を活かし、国を再建し、その力を世界に示してきたのです。

日本人は、日本国内に住む被爆者の助けや彼らと共に暮らす事で、何物にも代えがたい経験をし、非常に価値ある知識や情報を蓄えると共に、国際的なコミュニティに支援の手を差し伸べる事で、電離放射線によって被害を受けた人々にとって最も適切な治療やケアのあり方を世界中に広める事に貢献しています。

今回最も印象に残ったのは、このような知識や情報と最新の医療機器を使い、被爆者の一人一人に死に至るまでの間、完全な援助を惜しまないという事と、専門医達が日本以外の国に住む被爆者まで訪問し、対応しているという事を知った事でした。本当に素晴らしい事だと思いました。

このような活動は、被爆者の方々により満足の行く対応をする事を可能にし、同じような悲劇を繰り返さないための世界平和のための運動を提供する事も可能にするのです。

残念ながら、人間社会はますます不安定になり、抗争が増えています。新たな原爆が作られたり使われたりする可能性も消えてはいません。様々な障壁や自己中心、自己愛が戦争や破壊を生み出しているのです。

全ての国の為政者がこのような動きがある事を知っている事は大切です。でも、為政者達がこのような動きに敏感になるために、私達一人一人が周りの人々に働きかけ、平和を望む人を増やす事も大切です。そのような意味で、長崎やナシムが長年にわたって行ってきた活動は、人類が進んで行こうとする方向を変えているのだと思います。

また、このような惨劇を防ぐためには、人と人の間で不和が生じる真の理由を知り、諸悪を根源から撲滅するような方法を探し、それを分かち合う事も大切だと思います。

長崎大学病院での1週間の研修と、それに続く長崎原爆病院での1週間の研修は非常に有益で、病院を知り、医師や職員の方々と出会えた事は本当に大きな喜びでした。手術について教えて下さる時も、注意深く、丁寧に、また、私への敬意をもって接して下さった事に感謝しております。

長崎大学病院の泌尿器科でのサービスは非常に進んでおり、よく整い、一体となったスタッフが、各々の立場をわきまえ、調和が取れ、かつ効果的な活動を行っていました。スタッフのチーフや教授達は皆、知識や経験に富み、注意深く、受講者達に知識の全てを伝えてくださいました。受講者は皆、本当に恵まれました。それだけに、医師の訓練は非常に効果的で、特権と言えます。医療機器は最新のものばかりで、手術も皆、機微に富み、先生方の実力の程が窺われるものでした。私が想像もしていなかった、そして非常に感謝している事の一つは、泌尿器科の主任の許可を得て、2人の医師がロボットアームを使い、互いに協力し合って、前立腺ガンの患者2人の手術を並行して行う様子を、モニターを通して見る事が出来た事でした。

長崎原爆病院の泌尿器科では、非常に訓練され、能力のある医師3人が一致して働いておられました。私が見せていただいた手術は皆、腎臓や尿管の結石のために使う柔軟な尿管鏡や、前立腺肥大の手術に使うホルミウムレーザーなど、非常に近代的な医療機器を使って行われ、非常に順調に行われました。尿管鏡を使い、傷口も残さずに行った手術で切り取られた前立腺の組織の大きさには本当に驚いた事です。

先生方には本当に最善のものを見せていただきました。

ブラジルに戻ってからは、サンパウロにいる医師や私が接触できる限りの人々に、長崎の病院の泌尿器科はとても進歩している事を伝えていく所存です。

長崎市立深堀小学校で出前講座を実施しました。

ヒバクシャ医療の国際協力や放射線被ばく医療等についての知識などを普及するため、長崎大学の原爆後障害医療研究所の先生方に小中学校へ出向いていただいて講義を行う「出前講座」を実施しています。平和と科学、医療に関する国際協力への興味・関心を促すことの出来る楽しい講座です。

12月22日には長崎市立深堀小学校で出前講座を開催しました。６年生の生徒さん48名を対象として、長崎大学の三根真理子先生が、「原爆直後の救護活動と調査」と題して50分の講義を行いました。

受講された生徒さんの声をいくつかお伝えします。

●授業を受けてとても分かりやすくて戦争がどんなにおそろしいのかを改めて実感しました。それにいろんな写真を見せてくれたり、パンフレットなど使って病院や大学がどこにあるかなどがとても分かりやすかったです。見せてもらったアニメの中でいろんな「けが」「やけど」や放射線でなった病気などにかかっている人がどれだけつらいのかが伝わってきました。そして、ナシムという救護活動を続けて、今まだ苦しんでいる人を助けてほしいです。

●今日の授業で心に一番残ったことは救護活動です。五年生のときに勉強していない事が出てきたけど、とても分かりやすかったです。
最後のアニメも分かりやすく、いろいろなことを知れたのでよかったです。私の大きくなっての夢は看護師です。なので、今日はとても勉強になりました。今日のことをわすれずに、これからにいかしていきたいと思いました。

●三根先生のお話がとてもわかりやすく、画像がアニメなどの資料でとても勉強になりました。私は１年前に原爆について、平和について学びました。だけど、知らないお話や、知らない人がたくさんいました。ひがいを受けた方も救護をやられた方もどちらもつらかったのだろうなと思います。私は医師や看護師とは少し違うけど、薬剤師になりたいです。昔の方のように優しい心を持ち、患者さんと分かりあえるようがんばりたいです。

受講して頂いた６年生の皆さん、素直な感想をありがとうございました。

小学校高学年から中学校まで、関心の程度に合わせて内容や講義時間は調整可能です。時間は30分から１時間まで。本機関誌最終ページに出前講座受講募集のお知らせを掲載いたしておりますほか、ナシムホームページでも掲載しておりますので、興味をお持ちの方はナシム事務局までご連絡ください。

歓迎のあいさつから

熱心に聴講していただいた6年生の皆さん

図書等のご紹介

「長崎から発信するヒバクシャ医療　国際協力の歩み　座談会　被爆70周年とナシム」

出版部数2,000部（平成27年12月出版）
ナシムホームページでご覧になれます。

ナシムは被爆70年にあたり、平成27年７月30日に、「被爆70周年とナシム」と題して、当協力会に対しこれまでご指導・ご協力を賜りました10名の関係者の皆様にお集まりいただいて座談会を開催いたしました。

座談会は午後１時半から５時まで、途中休憩を挟んで３時間に及びました。

先ず、皆様の活動をご紹介いただき、これまでのナシムの成り立ちと今後のナシムの活動やナシムへの期待など、お話いただきました。

ナシムの23年の歩みと、これからのナシムが果たすべき役割についてさまざまな提言をいただいております。

ぜひ、ご一読ください。

第 11 回永井隆平和記念･長崎賞の候補者を募集

ナシムでは、長崎原子爆弾被爆50周年にあたる平成７年に、原子爆弾により自らも重症を負いながらも被爆者の救護に挺身された永井博士の功績を称え、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設しました。

この賞は永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぐ国際社会におけるヒバクシャ医療への貢献者を顕彰するもので、2年に1度開催されますが、平成28年度は第11回を実施する予定です。

５月から候補者の募集を開始する予定ですので、本賞の候補者としてふさわしい方をご推薦ください。

詳細については随時ホームページでお知らせします。

小中学校で出前講座を開催します。

ヒバクシャ医療の国際協力や放射線被ばく医療等についての知識を普及するため、長崎大学の先生方が小中学校へ出向いて講義を行う出前講座を実施いたします。平和と科学・医療に関する国際協力への興味・関心を促すことの出来る楽しい講座です。

下記の幅広いメニューを小中学生の皆さんに分かりやすく説明いたしますので、興味をお持ちでしたらぜひ事務局までご連絡ください。

講座メニュー	
放射線って何？－身近な放射線の話	
放射線・紫外線と私たちの健康	
長崎原爆の話	原爆直後の救護活動と調査
	長崎原爆被爆者のこころの調査
放射線といのち	

長崎･ヒバクシャ医療国際協力会通信 第39号
発行／平成28年3月

長崎･ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）
〒850-8570 長崎市江戸町2-13（長崎県原爆被爆者援護課内）
TEL 095（895）2475　FAX 095（895）2578
http://www.nashim.org/